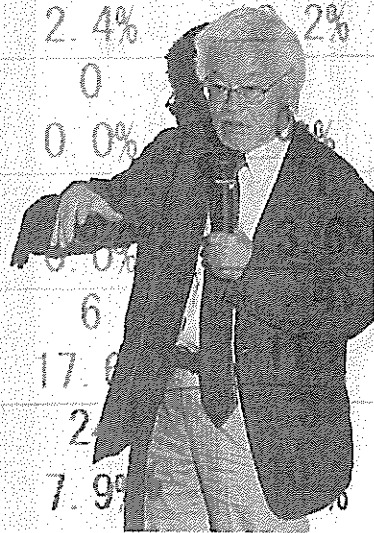


認知症重度化どう防ぐ

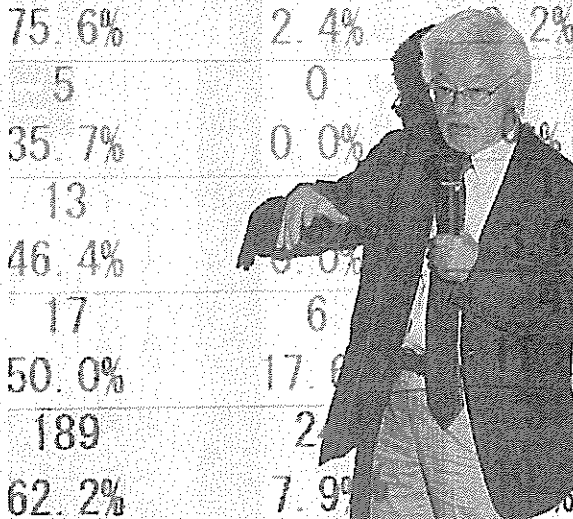
二戸市の
社会福祉法人

本年度の講座開始

竹内教授(国際医療福祉大学)が講演



初回の講座で改善事例を紹介しながら「認知症は治すのが最良の道」と説いた竹内孝仁教授



二戸市の社会福祉法人いつつ星会は、認知症者の自立支援介護を学ぶ本年度の二戸地区認知症あんしん生活実践塾を開講した。専門家の指導を受けながら12月まで、市内の当事者の症状や食生活などを記録・分析し、認知症の重度化予防を目指す。初回は市内の介護施設職員らも参加し、実践的な取り組みに理解を深めた。

講座は7日、同市石ら受講者9人はじめ、切所の市ンビックセン介護関係者や一般聴講者ら約90人が参加した。竹内教授は認知症治療の第一人者で▽水分摂取量▽栄養▽運動▽排泄に着目したケア

を提唱する。これまで11都県で実践され、2012〜14年には99人の計304症状に対して71%が消失、またはほとんど改善したという。認知症の中核症状である見当識障害については、1日1500mlの水分摂取を続けて意識レベルが向上し、徘徊などの症状が消失した例を紹介。「ケアには家族と介護事業者の熱意が欠かせない。薬で症状を抑えるのではなく、治すのが最良の道」と訴えた。

受講者で夫の介護に当たると市内の70代女性には「物忘れや怒鳴りなど症状の悪化を止められれば」と思い参加した。「老老介護」に不安もある中、認知症は治ると聞いて希望が見えた」と前を向いた。実践塾は、介護施設で「おむつゼロ」など高齢者の自立支援に取り組む同会が、昨年、本県で初めて開催した。本年度の研修は8月の第2回から本格的に始まり、受講者に若干名の余裕がある。受講は無料。問い合わせは事務局のデイサービスおからぎ(0195・22・4139)へ。

竹内教授は認知症治療の第一人者で▽水分摂取量▽栄養▽運動▽排泄に着目したケア